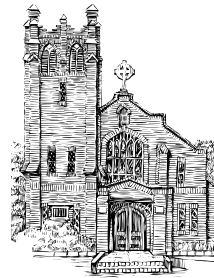


日本聖公会

大阪教区報



聖蹟主教会

聖ガブリエル教会

守口聖オーガスティン教会

主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097

発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

+++++ 第514号 2023年10月20日発行 +++++

「僕は聞いております」

(サムエル記上3:10)

司祭 ヒューム ウィリアム ユーワン

9月23日、堺聖テモテ教会において、兄弟姉妹の前で司祭按手を受けたのは、私にとって神様からのとても大きな恵みでした。

私の聖職者への道が正式に始まったのは、8年前のウィリアムス神学館に入学した時です。けれども、実際は、最初の一步を踏み出したのもっと前からで、その道を歩むことは私にとってはなかなか難しく、すぐに進んでいくことができませんでした。

神様、またはイエス様への応答が私たちの責任です。イエス様の弟子については、弟子になりたい人が自らイエス様の元に来て、弟子になったというのではなく、むしろ、当時のパレスチナでは珍しいことですが、イエス様自らが弟子を探し回り、弟子に相応しそうな人に呼びかけたという事です。ですので、最初の呼びかけはイエス様からの

呼びかけであり、弟子になるか、ならないかは本人の判断です。

なぜ、イエス様がそのような弟子の選び方をされたのかは分かりませんが、私たちに



も同じような経験があると思います。私は生まれながらのクリスチャンで、入信は両親のおかげですが、聖職者になることは異なりました。30年以上前の大学院の時、私に初めて聖職者になるというよう

な召命がありました。大学のカレッジのチャプレンとも相談しましたが、ある修道院にも何回も泊ることになりました。けれども、その召命感について私はそれ以上応えることができず、博士号を取得した後、来日して、日本の製薬会社で科学者として働きました。その時に、また神様からの呼びかけがありました、その時も応じることは難しかったのです。なぜなら、私は既に科学者の道を歩んでいましたので、途中で止めるということとは難しいことだったからです。その後前向きな気持ちで応じるのは何年もかかりました。

最初は聖職者になるためにイギリスに帰ろうと考えていましたが、日本で長い社会経験を積みましたし、既に川口基督教会の信徒でしたので、外国人なのに、珍しいと思います。日本の神学校に本科生として入学しました。

ウィリアムス神学館で3年

間勉強した後、恵我之荘聖マタイ教会で1年間聖職候補生として勤務し、その後、堺聖テモテ教会で牧師補、そして司祭按手を受けてから副牧師として働くことになりました。この二つの教会の皆様には、改めて感謝したいと思います。そして大阪教区の皆様と、導いてくださった神様に感謝いたします。

私にとって、司祭への道は長かったですし、真っ直ぐ順調に進んでいったわけではありません。若い時に、神様からの呼びかけに対してもっと真剣に応じた方が良かったのかもしれないと時々思います。が、神様の私に対してのご計画は日本で聖職者の道を歩むことであったのかもしれない。これからも日本で神様と人に仕え、司祭として働かせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(堺聖テモテ教会副牧師、
聖ルカ教会協力司祭、桃山
学院教育大学アシスタント、
チャプレン)



ヒューム司祭誕生 堺聖テモテ教会で按手式

バルナバ 奈良 慶治良

2023年9月23日、堺聖テモテ教会でヒューム ウィリアム ユーワン執事の司祭按手式がおこなわれた。

創立134年の堺聖テモテ教会の歴史の中でも聖職按手式は初めてのことである。数週間前から信者は心一つにして、この日のための準備をした。式は松原恵美子さん（堺聖テモテ教会）の奏楽で始められ、聖職団が入堂してきた。先頭で十字架をかがげ持つのはヒューム執事の長男、ヒューム誠嗣君である。会衆の中には英国エンジンバラから来られたヒューム執事のお母さんもおられた。

磯晴久主教の司式で按手式が始められた。旧約聖書朗読は恵我之荘聖マタイ教会の春名英夫さん、使徒書朗読は川口基督教会の増山悦子さんであった。

この日の説教はウイリアムス神学館におられた東北教区の吉田雅人主教である。「私が司祭になった時、教えられ

たことを思い出してお話し

す」と切り出され、説教する時は大きな声ではっきりと句読点を切って話す、大切なのは会衆を見て話す、中には初めての方もおられる、会衆と心を合わせて礼拝する。そして、司祭の任務をお話しされ羊の群れを導く人として、心をつくして民を養われたイエス様のように、深くあわれむ心の大切さ、コムパッション（共に受難）という言葉、キリスト者として苦しみを共にすることなどを話された。

推薦、試問、会衆の祈りに続いて、主教が志願者の頭の手を置き、臨席する司祭も共に手をさしのべ「主の教会における司祭の務めと働きのために、主の僕ヒューム ウィリアム ユーワンに聖霊を注いでください。アーメン」と按手された。

式の後、金山司祭の司会で祝会が開かれた。驚いたことにはヒューム新司祭がキルトをはいたスコットランドの民

族衣装で登場した。参加者から「ウワー」と声が上がった。

磯主教のお祝いのごはに続き、ウイリアムス神学館で共に学ばれた京都教区の江渡由直司祭と九州教区の塚本裕子司祭からウイリアムス神学館当時のヒューム新司祭の様子などが語られた。イギリスから来られたヒューム新司祭のお母さんからは「生まれた時にはこんな司祭になるなんて思わなかった」と喜びの声がよせられた。

会食はサンドイッチであったが、堺聖テモテ教会の女性の会の心のこもった手造りケーキ、そしていれたてのコーヒーマービス、川口基督教会よりはアイスの差し入れとみんなでヒューム新司祭の誕生をお祝した。

その後はヒューム新司祭の出身教会の川口基督教会、神学校時代

過ごされた恵我之荘聖マタイ教会、執事時代の堺聖テモテ教会をはじめ大阪教区婦人会、またいろいろ関わりを持たれた方々よりお祝いが寄せられた。

最後にヒューム新司祭よりお礼の言葉とこれからの決意が述べられた。そして、主の祈りと磯主教の祝福を持って祝会が終わった。

この日の参列者は134人で信施金はウイリアムス神学館のために献げられた。

(堺聖テモテ教会信徒)



聖職(司祭)按手リトリート
司祭 テモテ 内田 望

9月20日(水)〜21日(木)、

守口聖オーガスティン教会を会場にヒューム ウィリアム ユーワン執事の司祭按手のためのリトリートが聖職養成委員会の主催で「司祭職」というテーマで行われました。第1セッションで岩城聰司祭は、「み言葉」、「サクラメント」、「牧会」の重要性を述べられ、宣教と牧会は一体であることを強調されました。第2セッションで、韓相敦司祭は、教会の教務、霊的な成長、個人と家族のケアのバランスが重要であり、イエスの福音で結ばれる教会作り心がけてもらいたいという内容をお話しくださいました。第3セッションで、金山将司司祭は、ご自身の体験を通して、殊に葬儀に関しての司祭としての充実感をお話になりました。最後に福音記者使徒聖マタイ日の聖餐式を磯晴久主教の司式で行い、説教で、神さまの心を尋ね、願い求めることとの大切さを語られました。

聖餐式の信施金9,000円は、「守口ぶどうのいえ」の働きのためにお献げしました。

実り豊かな二日間を過ごせたことを感謝しております。

(聖職養成委員長)

日本聖公会2023全国青年大会

開催地：東京 日時：8月31日～9月3日

日本聖公会2023全国青年大会in東京に参加して
山本 順也

参加者34人(内、青年スタッフ14人) 教役者ほか23人 総計57人 二日間の参加ではありましたが、全国の教区から来た青年たちとの良い交流の場となりました。他教会の訪問など大変有意義な体験が出来ました。

3日目のグループディスカッションでは、教会が経験したことのないコロナ禍での体験について話し合いました。

議題：コロナでわかってきた事・見失った事・大切な事
コロナで思いだすことは人との距離ができてしまったことです。ソーシャルディスタ



ンスや三密などの物理的な意味でもそうですが、マスクで顔が見えず顔が思い出せないことや、コロナに罹患した人への差別など精神的にも距離ができ、当時は相手との間にか見えない溝があるよう

な感覚を覚えました。

教会全体が陪餐、聖歌と続き礼拝ができなくなったことに始まり、Jsや青年会といった信徒同士が交流する企画が自然消滅。コロナ以前にしていた活動をどんな風にやっていったのか思い出せないという意見がありました。私の所属教会でも礼拝後の軽食、うどんを食べなくなつて久しいです。誰かと交流することができ日常がとて大切だったことに気づかされました。

青年大会の主題聖句は、マタイ18章20節「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいるのである。」です。教会はコロナで禁止されていた三密がとても多い場所でした。一つの場所にみんなが集まり、聖歌を歌い、陪餐をし、平和の挨拶を交わし、礼拝が終わった後は食事をする等。この言葉の意味に共感すると同時に、誰かと距離を気にしなくていい日常がどれだけ良いものだったのか改めてわかりました。また、教会に来づらくなった信徒を、最寄り駅から教会まで車で送迎するサービスを始めた教会の試みなど

参考になりました。

(守口聖オーガスティン教会)

久しぶりの全国青年大会

青年担当者

司祭 金山 将司

コロナ禍で長く延長されていた全国青年大会が、東京神田キリスト教会を会場に、延べ人数67人、また会場提供をしてくださった神田キリスト教会の信徒ご協力のもと、この久方振りの青年たちの貴重な集いを開催することができました。

大会中、青年たちは西原廉太(にしはられん)太主教の聖公会についてのお話を聞き、聖公会の中心とその背景などを学び、各教区から招かれた4人の方(大阪からは内海紗英子(うちみさよこ)さん(川口基督教会)がパネラーとして参加)を通じて、信仰の履歴、また自分の信仰のきっかけなどもお話いただきました。また東京の教会や史跡、名所を巡るツアーも企画され、東京から横浜までいくつかのコースが設定され、各々希望のコースを選び、東京の教会、また名所をめぐりました。

最終日は、宿泊施設であった上野ユースホステルの会場をお借りし、笹森田鶴(ささもりたづ)主教練の司式のもと、青年大会で得たことなどを分かち合う一風変わった、そして青年大会の締めくくりにあふさわしい聖餐式で閉会となりました。

今回は大阪教区からも多くの参加者がこの大会に参加してくださいました。教会に青年が居ないと嘆いて久しいですが、まだまだ各教会、そして教区には青年たちが存在していると今回の大会で確信いたしました。これから、ポストコロナの時代が本格化し、全国規模の青年たちの集いも、また教区内外での青年活動も再開していくと思えます。その時代にあつて青年たちに教会はどんな楽しいことを示せるか。青年担当者として、また教区の一司祭としてこれは大きな課題であると感じました。



『杖ひとつ』

「若返りを願って」

大阪城南キリスト教会

スザンナ

竹淵 たけがち

久子 ひさこ

二〇二四年五月頃に、「いのちの電話事務局」が大阪城南キリスト教会の二階に入られる事になりました。二階の部屋を片付けている時、懐かしい写真が出てきました。二十年以上も前になるでしょうか、地域の方を招いてバザーが開かれていました。思わず「皆若いね！」あのんだこの人だ とタイムスリッ プしました。

代禱の時に、療養中の方々のお名前を読み上げます。お名前が少しずつ増えてきています。三年前には教会に 来られていたのに、コロナ禍ですっかり様子が変わってしまいました。

プール学院・大阪女学院・ 桃山学院の生徒さん達が 時折礼拝に参加されます。私も プール学院在学中に城南キリス ト教会に来るようになり、卒業の頃に洗礼を受けて頂きました。就職、結婚、子育て、 転勤等色々な時があり、教会

から離れていた時もありました。今は毎主日礼拝に参加出ています。学生さん達が、卒業してからも何かの折に教会に行つて見ようと思つてくれたら、と主に願います。

城南キリスト教会の近くには、タワーマンションが沢山建つています。「クリスマス・イースターの時などに教会に来てみて下さい。子供礼拝ではこんな事をしていきますよ！」と外に出て宣教を始めて行かなければ人が増えません。年齢層を若くしていかないと、年長者の力だけでは育つて行きません。

今、城南教会は毎主日二十名以上の礼拝参加者が集える事を願っています。

諸聖徒日には結構沢山の方々のお顔を拝見いたします。その方達が教会の枝に連なつてくださるようにと祈ります。



羊だより

―息のつけるスペース・プロジェクト― 第2回

主教 アンデレ 磯 いそ 晴久 はるひさ

前回、聖公会神学院創立110年記念講演(アラン・サゲイ博士)の第1回目の紹介を致しました。今回はその続きです。イングランド北東部にある小さな村の教会メンバーが、「私たちの教会はここで何のためにあるのか」を問い、話し合い、「息のつけるスペース・プロジェクト」というヴィジョンを与えられたところまでお話を致しました。小さな教会の人々は、話し合い、聴き合い、学び合う中で、自分たちの社会が、ますますコンパクトロールの効かないものになり、多くの人たちが社会の周

辺へと追いやられ、苦闘し、息苦しさを感じていると認識するに至りました。このことは英国社会だけではなく、日本社会も同じであります。大変ストレスの高い社会になっています。このプロジェクトは、人々が立ち止まり、じっくり考え、歩くスピードを落めま

す。それは、神の息であらう。それは、神の息である。聖霊の命を与える働きに根差していました。ヨハネ福音書10:10「私が来たのは彼らが生命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」このプロジェクトは、人々の日常生活を注視して行きました。

小さな教会の人々は、チーム・ミストリーを目指しました。それは教会間にとどまるものではなく、多くの教会外の組織・団体の人たちを招いたのです。いろいろな人と共に働くということ、皆常に願っていることです。神さまの愛は大きく、深く、高く、広いからです。

小さな教会の人々は、世界との関係において教会を捉えるようになっていきます。聖なる空間も聖餐式も世界に社会に開かれたものになっていきます。壊れた屋根も、多くの人々がスレート1枚分ずつを出し合つて修理されていきました。

また、小さな教会は村はずれにあつたのですが、その不利な条件も逆手にとりました。「小さな巡礼地」をアピールしたので。人々を迎え入れるように、努めたのです。教会の扉を解き放ち、祈りと黙想のための静かなスペースを、飲み物やビスケットと共に提供しています。訪問記録ノートを用意し、自由に書き込んでもらい、このノートを皆で大事にしているようです。小さな教会の人々は、聖餐式はもちろん建物も、自分たちの大切なものと考えましたが、何よりも日々の暮らしの中で、教会内外の人々が、相互に交流する開かれた共同体でありたいと祈り、願い活動をしています。

今回2回にわたつて、博士の講演の一部をご紹介します。皆様は教会で話し合ふきっかけになれば幸いです。



教会遠足第2弾 大阪教区生涯学習委員会・キッズフェスティバル実行委員会主催

リベカ 吉川 礼子

9月24日(日)、教会遠足第2弾が大阪聖三一教会で開催されました。参加者は、子ども23人、大人16人でした。新築の良い香りがするバリアフリーの聖堂内に座り、祭壇正面の十字架と丸い窓から見える青空を眺めていると、小学生サーバーの何とも愛らしい聖歌アナウンスで礼拝が始まりました。「陪餐時にベビーカーのまま並んでいる姿が、建て替えによって見られた嬉しい光景だった」と三一教会信徒のご感想をいただきました。

説教では、金司祭様が新聞紙を破ったりくしゃくしゃに丸めたりして『心の痛み』を表されました。そして一緒に祈ると、新聞紙はきれいな一枚に変わり「祈れば神様がいつもわたしの心を癒して下さる」友だちや世界のためにも、いつでもどこでも祈ることができる」とお話しして下さいました。

午後のプログラムは、子ども用に準備された「テゼの祈り」。聖堂床に並べられたクッションに座り、祭壇に飾られたアイコンとろうそくを静かに見つめてみんなの心がひとつになりました。テゼの空気が伝わる空間で子ども達は静かに賛美をくり返し、祈りと黙想のひとつときを持ちました。その後「紙飛行機大会」では、紙飛行機を自由に折り、飛行距離を競いました。折りを隣の友達に教えてもらったり、スマホ片手にインターネットで調べたり、工夫してそれぞれのオリジナル紙飛行機ができてあがっていました。おやつには「わたがし」を作った下さり、子ども同士おしゃべりをしながら美味しくいただきました。

最後に、金司祭様の「ハレ！」という掛け声に合わせて、みんなで「ルヤ!!」と一斉に紙飛行機を飛ばし、お祈りをして解散。教会を超えて友達と過ごした楽しい一日、みんなの祈りも紙飛行機に乗って神さまに届いた事でしょう。

キッズフェスティバル、教区礼拝、教会遠足と何度か顔を合わせているので子ども達も少しずつ仲良くなっていく姿もみられました。聖三一教会の皆様、子ども達のために心のもった準備の数々を有難うございました。また、次の教会遠足でお会いしましょうね。ハレルヤ!!

(西宮聖ペテロ教会)



ぶどうの枝だより第10号となりました。清里での宣教協議会開催も近づいて参りました。今回は前回第9号の続きとして、宣教協議会のプログラムの中からいくつか紹介いたします。

「宣教協働区アワー」このプログラムは、東日本宣教協働区、中日本宣教協働区、西日本宣教協働区ごとに分かれて時間を過ごします。

内容については各宣教協働区の協働委員の皆さんに考えて頂きますが、日本聖公会総会で宣教協働区制への道を歩むことをご提案された主教会からのメッセージを思い巡らせたり、これまでなかなかお目にかかることの出来なかった協働区のメンバーと一緒に昼食を食べながら、出会いと交わりが豊かになることを願っています。

「清里コール」(仮称) 今回の宣教協議会の集大成でもあります。何か「宣言」

でもありません。何か「宣言」

というような形式ではなく、「呼びかけ」のような形式でまとめていきたいと考えています。私たち実行委員会では仮に「清里コール」と呼称してあります。宣教とは、神様が主体となって進められている、神の国の成就を目指す絶え間ない働きです。私たちはこの働きに招かれています。

そしてその招き(コール)は今の時代、そしてそれぞれの状況においてどのように変化してきているのか、私たちはそれを机の上で考えるのではなく、10年の実りを持ち寄り、私たちのあゆみ物語を聴き、いのちの現場で働かれています5人の講師の皆さんからお話を伺い、そしてグループに分かれて思いを分かちあうことにより神様からの呼びかけ(コール)に込めたいと思います。11月の宣教協議会に至るすべてのプロセスが「清里コール」へとつながっています。

「清里コール」(仮称) 今回の宣教協議会の集大成でもあります。何か「宣言」

コールについてのイメージですが「難しい言葉を使わない」「強制されるものではなく、非難の対象とされるものでもなく、教会の宣教を主体的に担っていくきっかけとなるもの」として何よりも大切にしたいことは清里コールによって皆が励まされ、元気になる内容にしたいと思っています。「礼拝について」

宣教協議会を支える礼拝について最後に紹介いたします。礼拝はセーフチャーチワーカーキンググループ、祈祷書改正委員、青年の皆さんに協力を頂き豊かな祈りの時間を持つ予定です。神様の御声に耳を傾け、となりびとのために代祷を献げ、聖歌を賛美する事も神様からの呼びかけに込める大切な時間です。

コロナ禍を経て開催されようとしている宣教協議会です。清里に実際に集まる参加者のみならず主を信じる信仰の仲間とご一緒に神の国への呼びかけに込めて参りたいと思います。



大阪教区関係教役者
11月逝去者記念聖餐式

11月8日(水) 10:30~

*説教者：司祭 木村 幸夫

- 1日 司祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920英)
- 3日 司祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司祭 ヨハネ 張本 栄 (本名 張 準相1966韓)
宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968英)
- 5日 司祭 イザヤ 浦地 洪一 (2021)
- 9日 司祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 9日 司祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 レイチェル・ドーラ・ハワード (1947英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906英)
- 19日 司祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950英)
- 21日 主教 ホレイス・H・プライス (1941英)
- 22日 司祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940英)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかか
わらず、どうぞ自由にご参加ください。

【常置委員】報告 9/8 第15回(定例)

I. 主教報告及び諸報告

● 9月17日、恵我之荘聖マタイ教会が創立60周年を迎える。

● 9月29日(金)、宣教協議会・大阪教区参加者の集いが開催される。主教が10年の実りについて説明を行う。

● 原田光雄司祭の入院と竹林徑一司祭の静養に伴う関係教会の礼拝担当者状況が報告された。

● 九州教区で実施された「主

教制および伝道教区について」の学びの件が報告された。

【宣教局】

● 7月30日(日)、キッズの教会遠足が西宮聖ペテロで行われた。次回は9月24日(日) 聖三二を予定。

● 施設懇談会で、今年度のクリスマスプレゼント締め切りを12月17日(日)とし、従来どおり3カ所で集荷することになる。

【財政局】

● 9月18日(月・休)に会計

懇談会を開催。来年度分担金の提示を行い、意見交換の予定。

II. 協議事項と主教諮問

* 教区事務所新職員との契約および、今後の体制について協議した。

* 11月に提案する教区会議案について協議した。

* 教区に一元化された教会の登記について協議した。

* 主教人事案を了承した。

堅信

高槻聖マリア教会(9月10日)

- マリア 中村 麻由美
- ルカ 中村 直之
- アンデレ 中村 淳人
- フランシスカ 萬代 百々花

19日 東豊中聖ミカエル教会 (堅信式)

26日 尼崎聖ステパノ教会

主教巡回予定(11月)

5日 大阪聖ヨハネ教会 (堅信式)

12日 宣教協議会 清里・清泉寮

○ 深田直太郎司祭 逝去日 誤 1971年 正 1945年

お詫びと訂正

お詫びして訂正いたします。

公 示

救主降生 2023年9月28日
日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第131(定期)教区会を、下記のように招集します。

記

- ◆日 時 2023年11月23日(木/休) 午前9時(開会聖餐式)から午後5時
- ◆議 場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会) 大阪市西区川口1丁目3番8号

なお、上記教区会の書記を下記のように指名します。
書記 司祭 ステパノ 柳 時京
書記 司祭 テモテ 内田 望
書記 司祭 ペテロ 金山 将司

下記の通り、人事を発令します。

- 司祭 ヒューム ウィリアム ユーワン 9月23日付 堺聖テモテ教会副牧師に任命する。
- 10月1日付 主教アンデレ磯晴久のもと、聖ルカ教会協力牧師に任命する。第2主日礼拝勤務とする。期間は司祭ヨシユア原田光雄の復帰までとする。